

海外研究領域

海外研究領域長 沢田 治雄

森林総合研究所の多くの研究員は、日本と海外の森林環境や資源を対象として研究しています。そして、海外でも、持続的な森林管理技術の開発や、地球環境変動の影響評価と予測など、多岐にわたる研究を行っています。そのような中で、海外研究領域は、森林資源の持つ多面的な機能の保全に関する研究を行う海外森林資源保全研究室と、荒廃林地の回復に関する研究を担当するチームを構成組織として、海外の森林を主な対象として研究しています。構成員の専門分野は異なっていますが、それぞれ比較的大きな国際共同研究プロジェクト等にかかわりながら、海外研究における共通基盤的な研究を推進しています。

分断された野生生物の生息地間を結ぶ“緑の回廊”構想など、森林の保全とその回復の実現は世界的にも重要な課題となっています。しかし、熱帯地域などには極めて豊富な動植物が見られるため、保全や回復に必要な生理生態に関する知見はまだまだ充分ではありません。そこで、実際に現地での植栽試験を含めた研究を行い、具体的な利用価値の高い生態研究を進めています。

また、熱帯林等で種の同定やその多様性を確認し、生態的な特性を調査する研究を行っています。森林総合研究所では海外でこれまでも多くの新種を発見していますが、その標本の作成と保存も重要です。そのために、現地での採取、標本化、生態情報など国内外の研究者にとって参考となる貴重な資料の収集を行っています。

さらに、共通基盤的な技術として、リモートセンシングや地理情報システムを用いた世界の森林の継続的監視に関する研究があります。東南アジアにおける森林火災など、国際的に大きな問題となる森林災害をリアルタイムで監視する研究も行われています。

海外研究領域の主な研究対象地はアジア・太平洋地域ですが、国内外の要請に対応して世界各地の森林研究への貢献にも力を注いでいます。このように、海外研究領域で扱う対象は、分野、地域ともに多様ですが、海外における森林問題は直接的・間接的に日本の森林問題や地球環境問題と結びついてきます。そのような視点から、地球環境問題を念頭に置いて、国際的な活動を中心に研究を進めています。

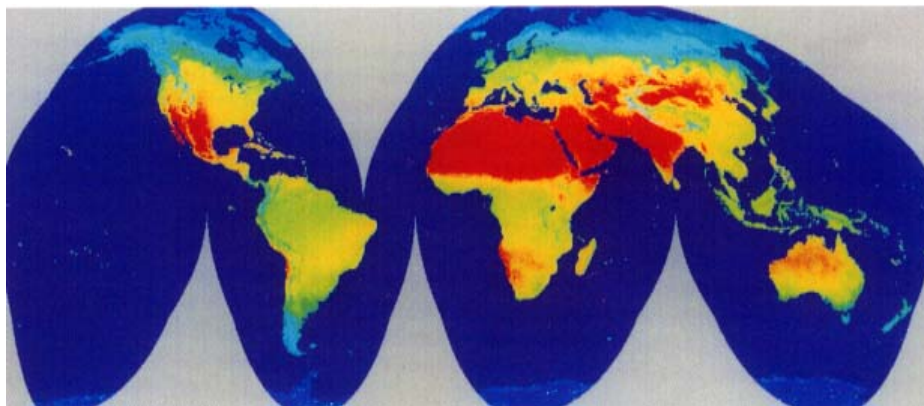


図1. NOAA衛星データによる陸域温度観測（10日間隔で季節変化や長期間の年変動を観測できるように雲の影響を除去したもの、画像は1999年5月初旬のもの）

[\[巻頭言\]](#) [\[シリーズ1\]](#) [\[シリーズ2\]](#) [\[シリーズ3\]](#) [\[おしらせ\]](#)

[\[所報トップページへ\]](#)